

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：「河内木綿再発見！ 木綿の魅力・面白さにふれてみよう！」（通称「河内木綿まつり」）

事業者名：財団法人八尾市文化財調査研究会

住所：大阪府八尾市幸町四丁目58-2

TEL：072-994-4700

FAX：072-994-4700

HPアドレス：maibun_zyao@kawachi.zaq.ne.jp

連携事業者名：ええショップいそどり運営委員会、NPO法人河内木綿藍染保存会、NPO法人HICALI、NPO法人やお文化協会、NPO法人歴史体験サポートセンター楽古、河内木綿伝習所、財団法人八尾市文化振興事業団、社会福祉法人ポポロの会「里の風」、社会福祉法人未来波「きっと」、社会福祉法人八尾すずらん福祉会「ワーク・すずらん」、社会福祉法人八尾ひまわり福祉会「ワークスペースあすく」、社会福祉法人ゆるり福祉会「Picapica作業所」、綿づくり体験農園ボランティア

会場：八尾市立歴史民俗資料館、ええショップいそどり（アリオ八尾内）、藍工房・村西、安中新田会所跡旧植田家住宅環山楼、八尾市立しおんじやま古墳学習館、綿づくり体験農園

事業期間：平成22年6月17日～平成22年11月15日



1. 館の使命と本事業の関係

多くの市民に、ふるさと八尾の歴史や文化財を知ってもらい、ふるさと八尾への愛着を深めてもらうために活動します。自ら“学ぶ”“創る”“伝える”を、基本理念として資料館の活動を行います。本事業は、当館が最も力を入れている河内木綿の魅力を知っていただく活動を、多くの市民や施設と連携することによって、更に活性化される事業です。

2. 企画内容

①事業目的

河内の綿づくりや河内木綿は、八尾市にとって明治時代はじめまで基幹産業でした。これらの伝統は、産業としての河内木綿が無くなった後でも、続いていました。八尾市民にとって、河内木綿は郷土の文化の中心にあります。

資料館は、府内有数の河内木綿コレクションを所蔵し、展示・体験学習等を行ってきました。今回の事業は、この活動を市内全域に広めることを目的にしています。そのため、市内の河内木綿復元に努力する団体や、河内の綿づくりを守る団体、障害者とともに綿や木綿の魅力的な商品を開発している作業所の団体など、普段交流がない他分野の団体を結び付ける活動を行います。

日常的に河内木綿に関わる人々の連携の輪を広げるとともに、多くの人々の関心を広げ、例年開催する目標を持つことで更に活動を活性化させたいと思います。

②事業概要

- ・市民が情報発信する事業（河内木綿復元作品の展示）
- ・障害者の自立とそれを応援する事業（河内木綿関連商品の製作販売）
- ・市民が綿と触れ合う事業（綿摘み体験と綿の工作体験）
- ・河内木綿資料を活用する事業（河内木綿資料の展示）
- ・活動をつなぎ、発展させる事（広く一般に「河内木綿」の取り組みを知ってもらう活動、各団体をつなぐ活動）

3. 事業実績

(1) 事業の内容及び日程

- ・平成22年7月22日（木）～平成22年10月4日（月）

企画展「河内木綿の型紙－河内の粹－」

河内長野市立郷土資料館が所蔵の河内木綿の型紙を紹介しました。この展示では、河内に残された型紙から、昔の人々の美意識やデザイン感覚について考えました。

- ・平成22年9月23日（祝）

「伝統工芸士による伊勢型紙制作実演会」

「河内木綿復元作品の展示」

「綿畑での綿摘み体験」

「綿繰り・糸紡ぎ体験」

「藍の型染体験」

「綿を使った工作体験」

「河内木綿をモチーフにしたアイデア商品の販売」

「各会場を巡るスタンプラリー」



伝統工芸士による伊勢型紙制作実演会
(歴史民俗資料館)



河内木綿復元作品の展示（環山楼）



綿畑での綿摘み体験
(綿づくり体験農園)



綿繰り・糸紡ぎ体験
(安中新田会所跡旧植田家住宅)



藍の型染体験（藍工房・村西）



綿を使った工作体験
（しおんじやま古墳学習館）



河内木綿をモチーフにしたアイデア商品の販売
（アリオ八尾）



巡回バス

（２）参加者の数

参加者人数 延べ１２７３人

内 訳：	夏休み体験展示「河内木綿の型紙－河内の粹－」	８８７人
	「河内木綿再発見！木綿の魅力・面白さにふれてみよう！」	３８６人

（３）事業により作成した印刷物等

ポスター

チラシ

スタンプラリーの台紙

（４）実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

なし

○テレビ、関連誌等

なし

4. 事業の成果及び今後の課題

連携した市民や各種団体とは、今後も連携しながら、活動を続けていきたいのですが、それぞれ手弁当で活動しており、経済的に難しいところがあります。また、各種団体が普段から交流する場を作るのが難しく、更に盛り上がるイベントにしていく上で、館のリーダーシップが問われます。

また、この行事に来られた市民も、入り口としては良い催しですが、更に日常的に継続的な活動を望む意見もあり、この要望に答えるのも難しいです。